

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成29年8月4日から平成29年10月6日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B15018、B16021、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成29年 8月現在）

事業所名： （施設名） 長野市立 加茂保育園	種別： 保育所	
代表者氏名： 市長 加藤 久雄 （管理者氏名） 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 50名（52名）	
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和37年9月25日	
経営主体： 長野市		
所在地：〒380-0873 長野県長野市新諏訪1丁目11-31		
電話番号： 026-232-7064	FAX番号： 026-232-7064	
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/		
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員： 9名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	・園長 1名	・保育士 15名
	・保育主任 1名	・給食調理員 3名
施設・設備 の概要	（設備等）	
	・乳児室 … 1室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 3室 ・遊戯室 … 1室	・調理室 … 1室 ・事務室…1室 ・便所 …1室 （屋外遊具） ・鉄棒・のぼり棒・滑り台 ・ジャングルジム

3 理念・基本方針

○長野市保育理念

- ・こどもの健やかな心身の発達を図り望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。
- ・児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもの保育を目的とする。
- ・子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

○基本方針

- ・安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- ・養護と教育を一体的に行い子どもの発達を援助します。
- ・保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- ・家庭、地域との連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。

- ・保育を実践するにあたっては、保育の基本となる「保育課程」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じて柔軟な保育を展開します。

○長野市立加茂保育園の保育のテーマ

- ・家庭的で温かい地域の保育園をめざして

○長野市立加茂保育園の保育目標

- ・よく食べ元気に遊べる子ども
- ・思いやりのある心豊かな子ども
- ・自分で考え、意欲的に行動する子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当加茂保育園は長野市が直接運営する30園(内保育所型認定子ども園1園・休園1園)の一つで、昭和23年7月に善光寺大勧進の付属として開設され、昭和27年3月に加茂小学校の教室の一部に移転、また、昭和29年3月に西部中学校敷地内に建設移転され同年4月から長野市に移管された。現在地の長野市旧市街地西部、新諏訪町に昭和56年2月に新園舎が完成し、平成25年3月に耐震工事を実施・完了した。

当園の子どもたちが年間を通じて交流している高齢者のサークルの中には当園の卒園生がおり歴史的な深さを感じられ、もちろん、子どもたちの父母も当園の卒園生であるケースもあり、親子三代にわたり関わり続けている家族もいる。そうした点から、地域の人々も当園に深い愛着を感じ、様々な形で協力を惜しまず当園のサポートをしている。当園でも地域の人々との関係性を大切に地域に根差した運営を目指しており、夏祭りでは神輿を担ぎ地域を回り、運動会では地域の人々に声掛けし多くの方の参加をいただいている。玄関には当園を中心とした地域マップが掲示されており、日頃の散歩で立ち寄る地域の名所旧跡や関わりのある高齢者のデイサービス、学校など、子どもたちが興味を示せるようにイラストタッチで描かれておりほのぼのとさせてくれる。

現在、当園には、0歳児・1歳児・2歳児14名のほし組、3歳児13名のつき組、4歳児・5歳児23名のにじ組、一時預かりのそら組の四つのクラスがあり、それぞれの発達段階に合わせ「よく食べ元気に遊べる子ども」、「思いやりのある心豊かな子ども」、「自分で考え、意欲的に行動する子ども」という当園の保育目標の実現に向けて全職員が熱心かつ誠実に取り組んでいる。

また、保護者のニーズに合わせ長時間保育や一時預かり、おひさま広場、障害児保育、親子交流体験のサービスも設けられている。長時間保育は短時間利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用される保護者がいる。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的解消等による預かり保育を行うサービスで、少しずつ浸透しており利用する方も増えている。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスで毎週木曜日に受け入れている。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで、親子交流体験も障害のある子どもが園児との遊びを通して交流を行うという内容になっている。

当園では「長野市乳幼児期の保育・教育の指針」及び「子ども・子育て支援事業計画」に沿いビジョンを明確にしており、次年度以降に公開保育や信州やまほいく認定制度の取得に向け、計画が具体的に進められており園内の環境づくりや職員の研修などに積極的に取り組んでいる。

保護者のアンケートでも異口同音に出てきた3つのキーワード、「良い雰囲気」、「家庭的」、「職員の笑顔」が訪問調査の中でも十分実感でき、当園の保育のテーマ「家庭的で温かい地域の保育園をめざして」の通り、保護者の感じているこの三つが良い意味で密接に結びつき、子どもの健やかな成長と保護者の安心と安定的した生活に繋がっていることが強く感じられた。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1) 子どもが主体的に遊べる環境づくり

社会環境の変化により、現在、家庭においての室内遊びが大きな流れとなっているため、体を動かす機会が減り、子どもの体力・運動能力が低下しているといわれ、つまずきによる転倒のケガなども多いようである。また、集団での遊びも減っていることからコミュニケーション能力の低下も指摘されている。

そのような中、当保育園では子どもの興味や関心、発達に応じて主体的に遊べる環境づくりについて工夫しており、天気の良い日はできるだけ外に出て思い切り体を動かせるようにしている。朝登園した子から園庭に出るなどの働きかけを職員がしており、かけっこやサーキット、鬼ごっこ、竹馬、縄跳び、登り棒など、様々な運動遊びを取り入れ、また、戸外に出て草花や虫を見たり触ったりする機会を持てるように園庭の隅に意図的に雑草が生えるようにし、虫たちが集まるようにしている。さらに、地域のお年寄りの協力を得てサツマイモなどの栽培を通して自然の不思議、おもしろさを感じられるようにもしている。

年齢に応じて協同して遊べるような活動も取り入れており、職員が仲立ちしながら、遊びの中で玩具の貸し借りの「かして」、「いいよ」というような、少しずつ社会的なルールが身につくように配慮をし、楽しめるようにしている。夏祭りのおばけやしきやおみこし等を協力して作り上げ、ゲームコーナーなどの友達同士で協同できる活動も取り入れている。

2) 地域交流活動を通じた人との関わり

地域における人間関係が希薄化になり子どもが色々な人と関わる機会が減少し人や社会と関わる力が弱くなってきているといわれている。

そのような流れの中、当保育園では異年齢の子どもや高齢者、地域の人々などと交流し、人に対する関心や愛着、信頼感を養えるように取り組んでいる。

散歩中に地域住民に挨拶をするなど地域の人々と関わるようにしており、苗植えや焼き芋大会、運動会、クリスマス会等、年間を通じて地区の和合会という高齢者のサークルとの交流があり、園開放や育児講座、育児相談等のおひさま広場に来る子どもや母親とのふれあい、職場体験やボランティア受け入れ等での中学生、高校生との交流などが実施されている。また、地域の独居老人の集まりにも年長組が参加し、踊りを披露したりして元気の出るまちづくりにも貢献しており、高齢者デイサービスへの訪問も加え、自然に異世代との交流ができるような機会が設けられている。

定期的実施している合同訓練でも近くの中学校の生徒が子どもの避難に関わりを持ち、消防署員、警察官などあこがれの職業の大人たちともふれあえている。

当保育園の設立経緯的にも地域に良く溶け込み、地域コミュニティーにとって欠くべからざる存在になっており、職員もその期待によく応えている。

3) 開かれた職場風土とチームワーク

園児 52 名、職員数 20 名という、規模的な優位性が考えられるが、その優位性を差し引いて考えても全職員が誠実かつ真摯に保育に取り組み、素晴らしいチームワークが醸成されている。

園長、主任以下全員が自らの職責を良く自覚しており、またお互いに尊重し合いながら当保育園の運営に参画していることが面接からも聞き取ることができた。

具体的には、各分野において各職員が建設的・意欲的にどんどん自分の考えを述べ話し合い、良いことはどんどん採用され活動に反映されるという「開かれた職場風土」となっている。

このことは職員間の風通しの良さととどまらず、組織的な相乗効果として、子どもたちがどんどん自分の意見を言う、また皆がそれを尊重し合うという、子どもたちにとっても「自分の意見を皆が聞いてくれる」、「他の意見もしっかり聞く」、そして「自分の意見も採用される」という理想的な好循環コミュニティー形成につながっていくものと思われる。

園の一日の中で、例えば、皆で歌う歌の歌詞の意味を考えさせ、自分の考えを発表し合う機会

を作る等、意見を出ししやすいような工夫をしている。

名実ともに、いわゆる「明朗闊達」な園児が自然な形で育成されており、各場面で見受けられる子どもの笑顔にその結果が反映されている。

4) 保護者と共に保育・養育を行おうとする姿勢

当保育園のアンケートの回答に異口同音に出てきた3つのキーワードは「良い雰囲気」、「家庭的」、「職員の笑顔」で二日間の訪問調査中にそのことが実感できた。

保護者に向けて、園の玄関、保育室前に一日の大まかな活動の様子を掲示してお知らせしており、保育参加、運動会、プール参観等、保護者が園に出向く日を利用して説明したり、「保育課程」、「園だより」を活用して、保育の意図や保育内容の理解を得るようにしている。

日頃から保護者とのコミュニケーションを多くとり笑顔で対応しており、何時でも話しやすい雰囲気を作り信頼関係を築いている。保護者には常に声を掛け、子どもの様子や活動の様子を伝えながら保護者との関係性が良好になるような雰囲気づくりを大切に職員も対話を心掛けている。訪問調査当日も保護者の顔が見えると駆け寄り子どもの様子等を伝える場面が度々見受けられた。

個別懇談会時、朝夕の送迎時、クラスだより等で「気になる事があれば何時でも相談してください」と投げかけ相談できる体制を整えている。保育園の特性を活かし、「一時預かり」や「時間外保育」等も行い保護者の就労に合わせた対応もしている。

当保育園職員の言動一つ一つに誠意が込められていることが訪問調査でも感じられ、おそらくそのことは保護者も同じように感じられており、当保育園と交流している和合会の高齢者の中にも卒園生がおり、地域の人々により培われてきたこの保育園ならではの伝統的なものがあるのではないかと感じられた。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 更なる子育て相談への支援

今後ますます核家族化が進捗し両親共に仕事に従事する状況が進捗していくものと思われる。結果、初期情操教育は家族というより保育施設でという比重が高まることが予測され、子どもや保護者の状況やニーズも益々多岐・多様化していき、その中には先例のあるケースばかりでないものも含まれ発生する可能性が考えられる。

すでに、住民自治協議会の子育て力向上の出前講座などに職員が参画しているが、「地域社会でこどもを育てる」という広い意味からも、子どもと家庭に合わせた子育て支援・家族支援を行うことも教育・保育施設に求められることが予測される。

激務の中ではありますが、これらの予想される課題について十分な準備をしていただき確かな対応をされることを期待したい。

2) キャリアパス的な制度の導入

公立という立場から難しいと思われ、また、保育職というある意味、実績考課が計りにくい職種ということもあるかもしれないがキャリアパス的な制度の導入について検討をされる余地があるのではないかとと思われる。

年功序列、終身雇用が一般的であった時代から変わり個人個人の進む道は多様化し将来の自分の姿が描きにくくなっている。どの程度の習熟レベルに達すればどう昇進できるのか、自分のスキルと経験をどのように生かすことができるのかの目安があれば意欲的に仕事に取り組むことができるのではないかとと思われる。

新しい福祉人材の確保という面からも将来に向けて検討されることを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成29年10月 5日記載）

第三者評価を受けるのは初めてであり、大きな不安と戸惑いがありました。しかし、コスモプランニング様から丁寧な説明をしていただき、保護者の皆様や祖父母の皆様から温かいご理解とご協力をいただきました。また、担当補佐や各補佐、園長の助言や励まし等、多くの方の支えをいただき受審をすることができました。

当園の成り立ちや歴史を改めて確認し、地域の大切な保育園である重みを再認識しました。公立園は職員の異動があるため、事務的な引継ぎに加え、園の歴史や大切に継続している事項、地域の思いなどについてもしっかりと引き継ぐことが大切だと感じました。

また、保育の専門性、保育実践等をいかに見える化し、保護者さんに理解していただくかが重要だと改めて感じました。その土台がしっかりとした上で初めて保護者さんと連携して子どもの育ちを見ていけるのだと感じました。

アンケートのご意見については真摯に受け止め、改善すべき内容については、話し合いや研修を積み重ね改善していきたいと思えます。

全職員が一丸となって日々の保育を振り返り、子どもの最善の利益を考えてより良い保育に向けて取り組んできたことは一番の成果です。

自園では何を大切にしているか、どんな子どもを育てようとしているのか、保育目標の意味を今まで以上に深く追求していきました。行うべきことを具体化していく中で、子どもの声を生かした環境を作り、子どもの心に寄り添った配慮を積み重ね、保育の質が高まっていくことを実感しました。保育はこれで良いということはありません。永遠により良い保育を追い求めていくものだと思いますが、課題に向けて懸命に努力する職員の姿もあり、この素晴らしい職員集団に恵まれたことは幸いでした。

社会情勢が目まぐるしく変わり、保育のニーズも多岐に渡り、来年度は新保育指針に添って保育を進めていく中で、自園では公開保育を行うことになっています。

今回の受審で、得たこと、課題などを糧として、より良い保育サービスの提供に向けて取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、評価実施にあたり、温かく寄り添って、自園の強みと課題を見つけてくださったコスモプランニングの皆様にご感謝申し上げます。

ありがとうございました。